エコハウス研究会季刊紙

そらどま

2025年
夏号
第22号

2025.SUMMER vol.22

CONTENT

集まって暮らし　集まって住む　プロジェクト
熊本市水前寺５丁目プロジェクトの中間報告

丸谷博男（代表理事）

表紙
糸魚川の家改修工事
設計：丸谷晴道

農村風景の広がる新潟県糸魚川市大平。日本で一番若い活火山、焼山を原流とする早川の上流集落。この村は市街地から約14kmほど山間部に入った奥地で、高地のため積雪3～4mの豪雪地である。江戸時代に人口が増え、新田開発でできた集落は、茅葺き屋根の高床形式で、時代の移行と共にトタンの風景となっているが今でも何軒も残っている。その中の一軒の古民家改修プロジェクトがはじまった。村に住む人も減少し、家の維持すらままならない地域社会において、地域を超えた人々との新たな「共感と学び」の繋がりから持続的な支え合いの暮らしをデザインする。（丸谷建築研究所）

SORADOMA

2025年の秋までに入居者を募集し、2026年早々に着工、2027年春から夏にかけて入居というスケジュールで2024年にはじまったプロジェクトが日々進化、躍進しています。その様子を皆様に報告させていただきます。

集まって暮らし
集まって住む
プロジェクト

昨年春から取り組んできました「熊本市水前寺五丁目プロジェクト」の中間報告です。

それぞれが歩んで来た道、
今、改めてこれからの、それぞれの暮らしと住まいの形を整理する時です。
それぞれの未来を作る、それは「編集」という作業、それは「脚本」という次のドラマを作り出す「創作」です。
そこに皆様にとっての次の形が作り出されていきます。私たちは、皆様の人生の「編集」「脚本」のお手伝いをしていきます。

皆様の一人一人の「道」を集め、新しい「道」づくりをしていきます。
一本道であったものを、緑地帯もあり、せせらぎもあり、街路樹もある道、自転車道もあり、昆虫や小動物も共に歩いている、そんな道づくりが、私たちの仕事です。

初めは、先人たちの足跡に沿い、「コーポラティブハウス」を作ろうと旗を掲げました。そしてそこに皆様が集まって来ました。
独身世帯の方々、ご夫婦の方々、退職し年金生活の方々、まだまだ現役で働く意欲のある方々、厳しい介護を続けている方々、その介護を漸く終えた方々、本当に人様々です。
そのような皆様方の人生に触れ、改めて私どもの役割と使命を強く感じています。また、それは大変素晴らしい仕事だと心から思うようになりました。

ご家族にこのプロジェクトへの相談をしたら、「この家のままでいい」と断られてしまった方がいました。「もう80半ばだから、今更、住まいを変えるための雑務に取り組むには気力が足りない。このままでいいよ。」と言って、娘さんに連れてこられてきたのですが、参加されなくなってしまった方もいました。
大丈夫です。そこからが始まりと思ってください。一緒に、学びを続けましょう。このプロジェクトの行方に寄り添って来てください。

もう一方で、地域のドクターや介護福祉士の皆様が参加され、このプロジェクトが大きく進化しています。それは、**「医療ケアのある共同の住まい」「終活に向かい相続などの経験豊かな助言のできる介護福祉士のアドバイスのある共同の住まい」**などです。そして気づけば、「建築と健康を深め実践して来た私たち」がいました。9月21日午後2時から、在宅医療クリニックのドクター松本武敏氏と建築家丸谷博男による「家に在り、家で健康に暮らす物語—医師と建築家が語る」講話の集いを「ホテル熊本テルサ」にて開催することとしました。
このプロジェクトが大きく羽ばたく瞬間です。是非、友人知人にお声がけをお願いいたします。

キーワードは以下です。

・予防の科学／住まいの科学（空気質、温熱輻射熱環境、換気、採光環境、自然素材）
・医療から見る体調不全の原因／建築から見る体調不全の原因（シックハウス、ダニ、カビ）
・医療から見る健康の鍵／建築から見る健康の鍵（睡眠、食事、活動、休息、運動）

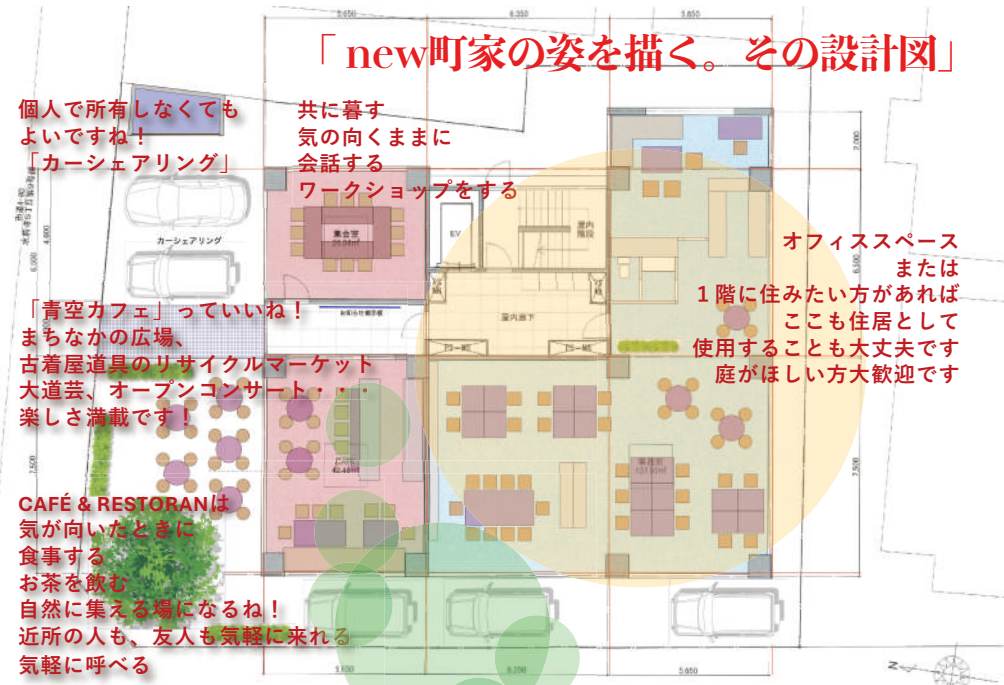
「分譲住宅としての購入は難しいが、このプロジェクトの在り方には大変夢を持てるので参加できたらとても嬉しい」このような希望もありました。そこで取り組み始めたのが、ワンフロアにシェアハウスを作る、ということでした。これも本気になって取り組んでいます。コーポラティブとシェアハウス、このような取り組みは、住まい手に寄り添う心から生まれ出たものです。一つの建物に二つを取り込むのは、日本で初めての試みと思います。

水前寺五丁目プロジェクトは、皆様と一緒に成長し、住まい手に寄り添うプロジェクトです。
以上、中間報告でした。これからもよろしくお願いいたします。

2025年7月22日　水前寺五丁目プロジェクト代表　丸谷博男

「new町家の姿を描く。その設計図」

多様な家族の集合住宅は
地域の家族とも多くの接点を
持ち合わせています
➠CAFÉと集いの場所がある
ソーシャルミックス広場へ



間取りはこれまでの皆様の体験と夢と
私共プロの経験を合わせて作ります。

多様な家族の集合住宅は
一人世帯を合わせて
大家族を作ります！

この計画はまだ叩き台です。
今後参加者の皆様とともに
さらに共に暮らす夢のある
プロジェクトに育ててまいります。

「new町家」は、様々な家族で構成された集合住宅です。もちろん、普通のマンションのように３～５人の家族が一つの家に暮ら標準的な住まいもあります。
最近多くなってきている単身の家族のために、小規模住宅と賃貸型のシェアハウスも計画しています。年齢は問いません。人生の先輩後輩、色々いて良いと思っています。
私たちの考え方は、町にある家族の姿そのものを、より安全で、合理的で、心の通いやすい共同の住まいという形で、再構築しているだけなのです。

戦後の急激で大量の住宅供給は、住まいという形だけを作り上げ、「共に暮す」というとても大切な人と人とのつながりをないがしろにしてきてしまいました。私達が作ろうとしている共同住宅は、「共に暮す」ことに大きな関心と力を注いでいるのです。

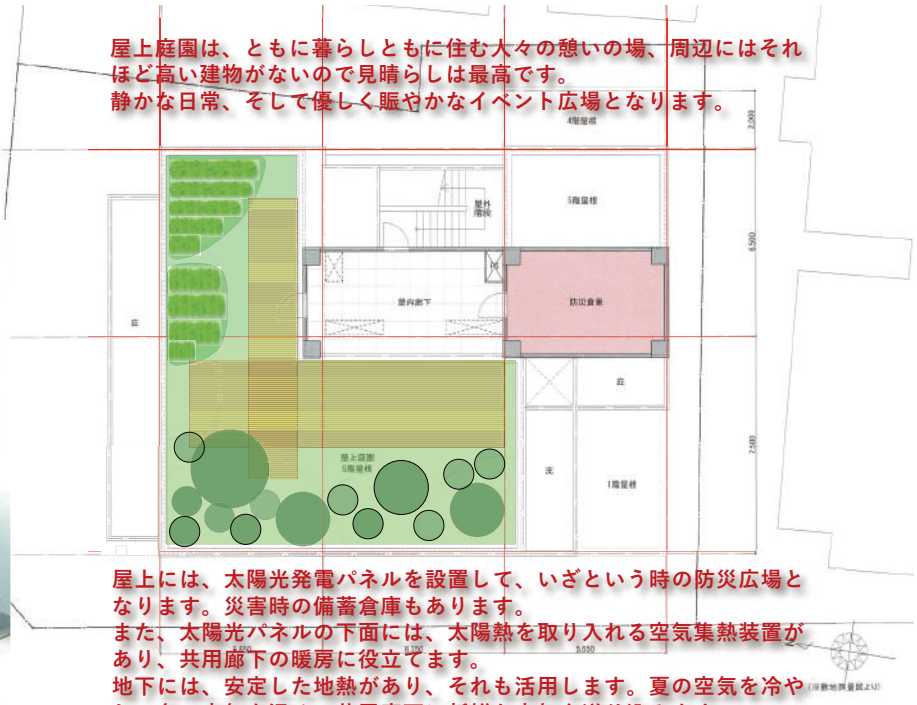
ぜひ、皆様にこのプロジェクトに参加していただき豊かで人情味のある「暮らしつくり住まいつくり」を実現していただきたいと願っています。

西南の角は立体バルコニー
立体庭園となっています。
町の風景に楽しいspotが生まれます。

心なごむ屋上緑化庭園！

屋上庭園は、ともに暮らしともに住む大々の憩いの場、周辺にはそれほど高い建物がないので見晴らしは最高です。
静かな日常、そして優しく賑やかなイベント広場となります。

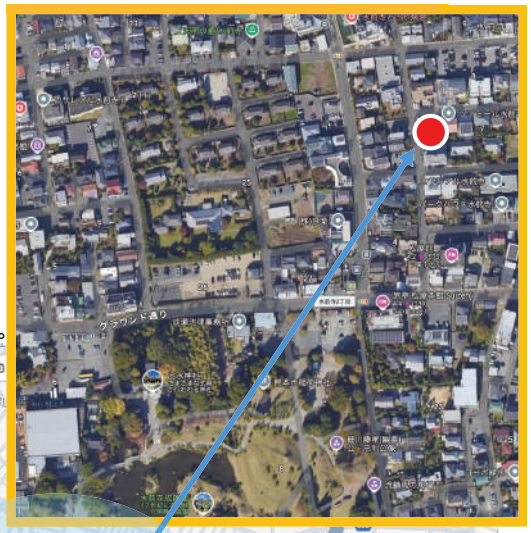
AI によるimageilust



屋上には、太陽光発電パネルを設置して、いざという時の防災広場となります。災害時の備蓄倉庫もあります。
また、太陽光パネルの下面には、太陽熱を取り入れる空気集熱装置があり、共用廊下の暖房に役立てます。
地下には、安定した地熱があり、それも活用します。夏の空気を冷やし、冬の空気を温めて共用廊下に新鮮な空気を送り込みます。

水前寺運動公園

建設予定地です。
2軒の地主の方の協力を得てこの計画が始まりました。



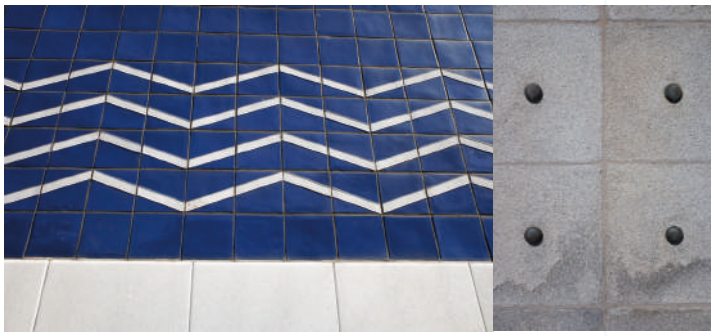
水前寺五丁目公園

水前寺成趣園

"熊本藩主初代細川忠利公（1586-1641）が鷹狩の際に、渾々と清水が湧くこの地を気に入り、御茶屋として整備されたのが始まりといわれる。後に、熊本藩3代藩主・綱利公（1643-1714）の代に大規模な作庭がなされ、現在の規模の庭園が完成。5世紀東晋の時代の詩人・陶淵明の詩（帰去来辞）より「成趣園」と命名されました。華やかな元禄時代には東屋も沢山あり、成趣園十景を選んで楽しまれました。肥後国熊本藩6代藩主・重賢公（1720-1785）の時代に建物は酔月亭一つを残して撤去され、樹木も松だけの質素なものとなりました。 園内の池からは清冽な伏流水が湧き出し、見事な和風庭園が広がります。水前寺成趣園の池は阿蘇の伏流水から造られ、湧水は、1年中約18度の水温に保たれています。

デザインコンセプト

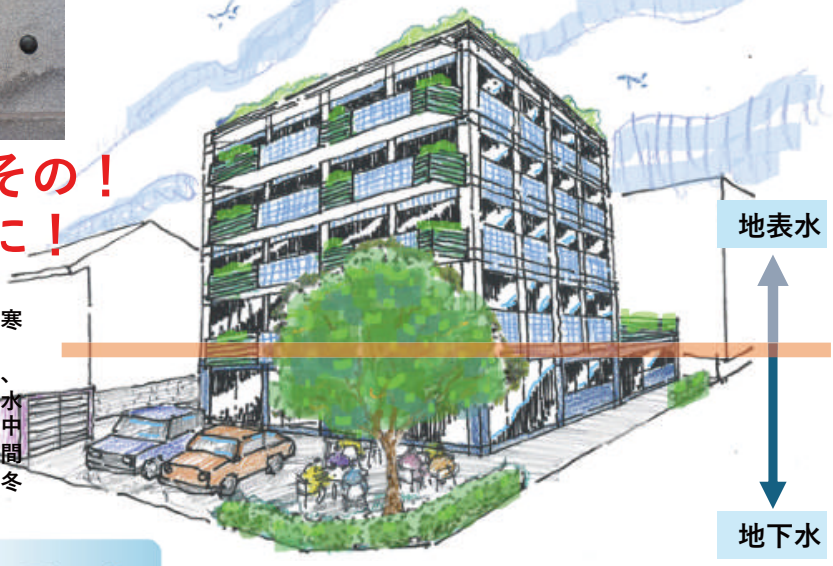
（仮称）水前寺五丁目プロジェクトは、熊本県、阿蘇山系、そして水前寺という尽きることのない命を支える清らかで豊かな「水」がテーマです。その建物はまたの名を「命の水監視所」と言います。建物のイメージも、「水のデザイン」から生み出そうと考えています。
写真の建物は、ウィーンにある世界的建築家オットー・ワーグナー設計の水道局の河川監視所です。とても美しい建物です。

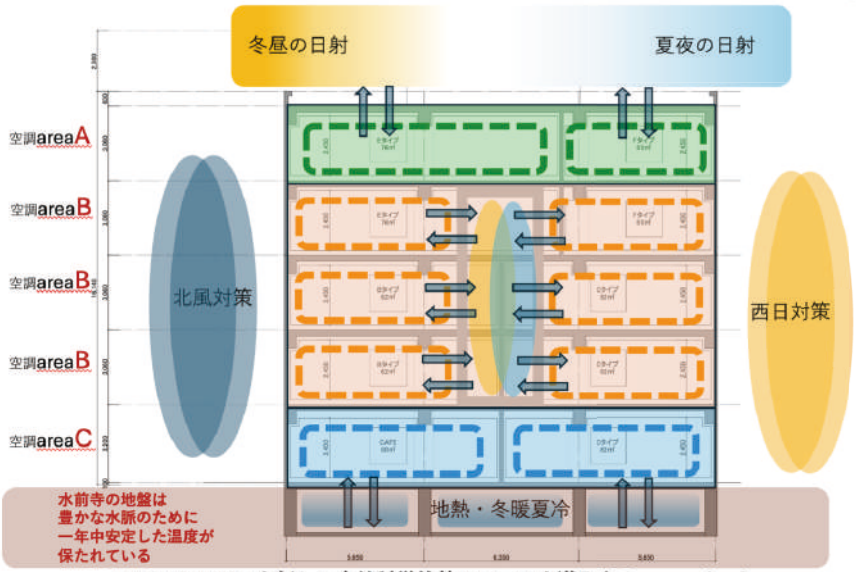


阿蘇山系の伏流水が流れる水前寺は清らかな水の豊かさが特徴です。

厳しい夏厳しい冬もなんのその！
自然エネルギー活用で快適に！

熊本市水前寺の年間気候の特徴:
熊本市は内陸型気候で、夏は暑く冬は寒くなります。日中の寒暖の差も大きい特徴があります。年平均気温は17℃前後。
地中温度は地表面から深く下がるにつれて変動が少なくなり、年間を通してほぼ一定の温度を保つと考えられます。熊本市水前寺の場合、地中温度は年平均気温に影響を受けますが、地中深さが増すにつれて変動幅は小さくなります。地中温度は年間を通じて比較的安定した温度で推移し、夏は比較的涼しく、冬は比較的暖かいと推測されます。

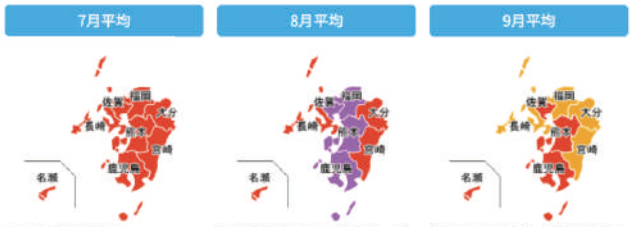




～マンションにも新しい自然科学的熱システムを導入する～ by h.maruya

空気が違う！
温湿度環境が違う！

7月は全域で「厳重警戒」、8月は広い範囲で「危険」ランクになる見込みです。
9月は、広い範囲で「厳重警戒」ランクになるでしょう。



全域で「厳重警戒」。
各地とも、日によっては「危険」ランクになる可能性があります。

福岡県や佐賀県、熊本県、鹿児島県で「危険」。
各地とも、日によっては「危険」ランクになる可能性があります。

佐賀県や熊本県、鹿児島県で「厳重警戒」。
各地とも、日によっては「厳重警戒」や「危険」ランクになる可能性があります。

ペットフレンドリーホーム宣言！

人とペットが快適に楽しく暮らすためには、住宅の設備や構造、入居のルールづくり、飼育マナーなどの普及啓発が図られなければなりません。長年にわたってペットの適正飼養普及啓発に関わってきた公益社団法人 日本愛玩動物協会では、ペットと暮らす生活が 飼い主にとってもペットにとっても、また、ペットを飼っていない人にとっても豊かなものになることを願い、ペット共生マンションや住宅の関係者に対して「ペットフレンドリーホーム宣言」を呼びかけています。

ペットを受け入れる集合住宅を検討しています。すでに３家族が入居希望されています。都市化、単身家族化により、希薄化した人間関係を埋めるように、ペットの家族のなかでの役割が大きく変わってきました。子供（15歳未満）の数より、ペットとしての犬、猫の方が多い現代、ペットを家族の一員として受け入れられる暮らしを！実現しています。

日本の暮らしと住まいの環境が大きく変容しています。不登校、引きこもり児童生徒の増加、向こう三軒両隣でさえ挨拶がなくなり、暴力的な強盗の増加、そして2050年には、単身世代が過半を超える時代となることが予想されています。このような状況の中で、安心して暮らしていける日常を多くの人々が望んでいます。そうした環境を、自ら作る方法の一つが「コーポラティブハウス」です。それは、「出来上がったものを購入する」のではなく、入居する住民が共同して自ら土地を購入し、企画、設計を話し合いながら進め、建築工事会社を選び発注し、入居後も豊かで温かいコミュニティを育み、自分たちで管理し、豊かな人生を送ろうとするものです。ぜひこのプロジェクトに参加し、共に明日の暮らしを描いていきましょう。「孤独」は、明日への跳躍の種です。皆様のご連絡ご相談をお待ちしております。

「new町家」ってこんなイメージのような気がする

各戸の駐車スペースでは
不足しているのかな
事業所はそれほど多くはないはずなのに

もう一つ目立つのは「とうや病院」
本院の他に高齢者施設がいくつかあり
購入された土地も
町内では目立っている
そのうち本院の建て替えを考えているのかどうか
地域としてはとてもありがたい安心要素だけど

水と空気と緑の環境は
とても素晴らしいが
熊本の中心街は緑が少ない感じがする

熊本城も緑が多いとはいえない
成趣園から江津湖への緑のつながりは一番の宝
この水と緑の存在を
もっと町中に広げてほしい
もっと素敵な表現があっていい

目には見えない水
それは阿蘇山系から流れ出し
海へと注いでいる
それは　地下水としての物語

地上からは見えない世界が広がっている
しかし　その恩恵は
大地の宝物となって
環境と　緑や作物に表現されている

わたくしたちの共同住宅
「new町家」ができると
水前寺五丁目の町の様相が変わる

これまでは
静かな佇まいであった水前寺の家並みに
暮らしの交流　未来への息吹きが
湧き出していくことになる

小さなイベントも始まる
小さな食事会パーティーも開かれる
小さな庭づくりが始まる
ちいさなテラスや広い屋上では
バーベキューや野外料理も行われる

若者たちも集まり
年寄りとの交流も始まる

「とうや病院」とのコラボレーションも始まるに違いない
何と言っても１０世帯以上の住民が
交流意欲を持って
new町屋に　移り住んでくる

いや！　もっとたくさんかな！
もしかしたらシェアハウスもできるかもしれない

ここで生まれる子育てってどんなものだろう？
幅広い年齢層が　共に暮らす環境は
子供にとっては　興味津々に違いない
刺激的だよね

そして　昔のことも教えてもらえる
遊びも　手作りも　料理も　お菓子も
暮らしそのものが
遊びだった時代があったから

その子供の両親は共稼ぎ
だから近所がありがたい
緊急の保育も　病気も
なんとかなるかもしれない
病院が近いのも　安心材料だ！

高校生は
どんなにして暮らすのだろう

二極かな　new町屋が好きで
多くの時間をここで過ごすもの
友達もここにくる　そんな時
お金のかからないCAFÉがあると
どうなるだろう

もう一つの極端は　出っ放しの者
それも若者らしくていい

でも　祭りとイベントの時には
しっかりと働いてくれる
そんな　そんな
関わりのいろいろが　いいと思う

new町屋は
幸せな風景だけではなく
悲しい時も突然に襲ってくることがある
それはそれ　すべて
誕生と死の間にある人生だから

各戸の駐車スペースでは
不足しているのかな
事業所はそれほど多くはないはずなのに

もう一つ目立つのは「とうや病院」
本院の他に高齢者施設がいくつかあり
購入された土地も
町内では目立っている
そのうち本院の建て替えを考えているのかどうか
地域としてはとてもありがたい安心要素だけど

水と空気と緑の環境は
とても素晴らしいが
熊本の中心街は緑が少ない感じがする

熊本城も緑が多いとはいえない
成趣園から江津湖への緑のつながりは一番の宝
この水と緑の存在を
もっと町中に広げてほしい
もっと素敵な表現があっていい

目には見えない水
それは阿蘇山系から流れ出し
海へと注いでいる
それは　地下水としての物語

地上からは見えない世界が広がっている
しかし　その恩恵は
大地の宝物となって
環境と　緑や作物に表現されている

わたくしたちの共同住宅
「new町家」ができると
水前寺五丁目の町の様相が変わる

これまでは
静かな佇まいであった水前寺の家並みに
暮らしの交流　未来への息吹きが
湧き出していくことになる

小さなイベントも始まる
小さな食事会パーティーも開かれる
小さな庭づくりが始まる
ちいさなテラスや広い屋上では
バーベキューや野外料理も行われる

若者たちも集まり
年寄りとの交流も始まる

「とうや病院」とのコラボレーションも始まるに違いない
何と言っても１０世帯以上の住民が
交流意欲を持って
new町屋に　移り住んでくる

いや！　もっとたくさんかな！
もしかしたらシェアハウスもできるかもしれない

ここで生まれる子育てってどんなものだろう？
幅広い年齢層が　共に暮らす環境は
子供にとっては　興味津々に違いない
刺激的だよね

そして　昔のことも教えてもらえる
遊びも　手作りも　料理も　お菓子も
暮らしそのものが
遊びだった時代があったから

その子供の両親は共稼ぎ
だから近所がありがたい
緊急の保育も　病気も
なんとかなるかもしれない
病院が近いのも　安心材料だ！

高校生は
どんなにして暮らすのだろう

二極かな　new町屋が好きで
多くの時間をここで過ごすもの
友達もここにくる　そんな時
お金のかからないCAFÉがあると
どうなるだろう

もう一つの極端は　出っ放しの者
それも若者らしくていい

でも　祭りとイベントの時には
しっかりと働いてくれる
そんな　そんな
関わりのいろいろが　いいと思う

new町屋は
幸せな風景だけではなく
悲しい時も突然に襲ってくることがある
それはそれ　すべて
誕生と死の間にある人生だから

熊本市の熱環境資源「地下水と地熱」

「阿蘇の自然」と「人の営み」による地下水の恵み

日本の平均降水量は年間約1,700mmですが、熊本地域では約2,000mm、阿蘇山にいたっては3,000mmもの降水量があります。降雨の多さが地下水に恵まれる一因となっています。豊富で良質な地下水の恩恵を受けられるのは、このほか、次の2つの要因も大きく影響しているといわれています。

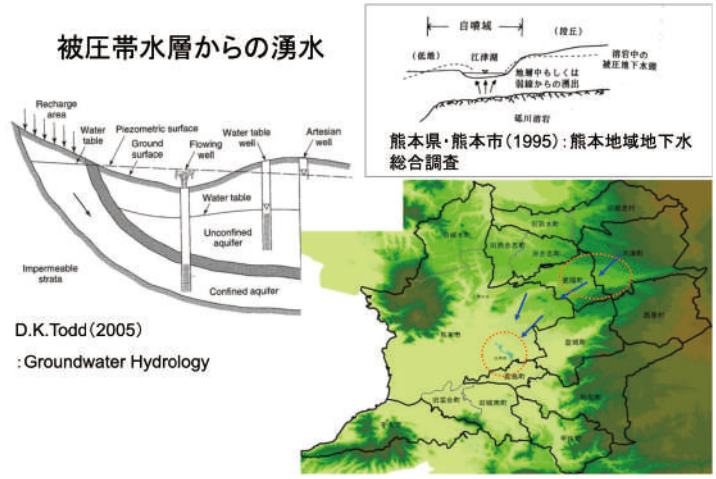
（要因1）阿蘇の自然のめぐみ

阿蘇火山は、約27万年前から約9万年前にかけて4度の大火砕流噴火を起こしました。この火砕流が厚く降り積もって熊本の大地はできあがりました。この阿蘇火砕流でできた地層はすきまに富み、水が浸透しやすい特徴を持っていて、100m以上の厚さで広く分布しています。そのため熊本地域に降った雨は地下水になりやすく、地下に豊富で良質な水が蓄えられます。阿蘇山によって「世界に誇る地下水都市・熊本」の土台ができあがったのです。

（要因2）加藤清正公と地下水をつくる「かん養域」

熊本城を築いた加藤清正公は、多くの土木工事、治水・利水工事を手掛けたことでも有名で、今でも土木の神様、治水の神様「清正公さん」と敬われ、祀られています。約430年前、肥後に入国した清正公は、白川中流域（大津町・菊陽町など）に堰や用水路を築き大規模な水田開発を行いました。

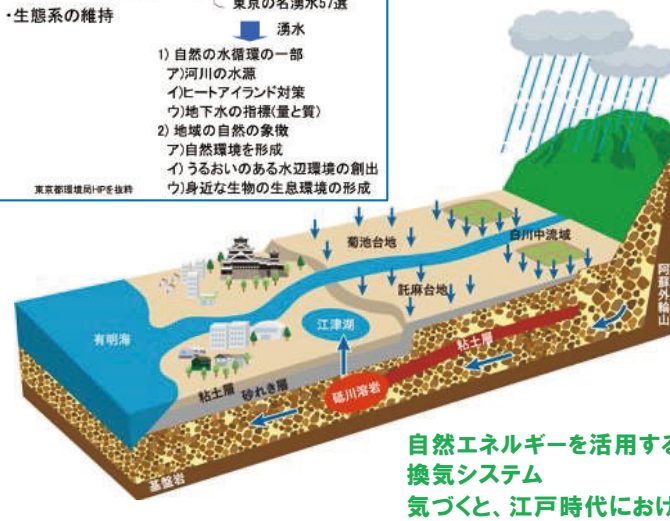
この水田開発は、その後も加藤家や細川家の子孫らによって受け継がれることになります。特に白川中流域の水田は水が浸透しやすい土壌のため、通常の5～10倍も水が浸透します。地元では「ザル田」と呼ばれるほどです。水が浸透しやすい性質の土地に水田を開いていったので、大量の水が地下に浸透し、ますます地下水が豊富になりました。（文章・図は熊本市HP、その他学術資料より引用）



地下水の主な役割
- ・水資源
- ・親水環境の構成要素 → 名水百選(1985)／平成の名水百選(2008)／東京の名湧水57選
- ・生態系の維持

→ 湧水
1) 自然の水循環の一部
ア)河川の水源
イ)ヒートアイランド対策
ウ)地下水の指標(量と質)
2) 地域の自然の象徴
ア)自然環境を形成
イ)うるおいのある水辺環境の創出
ウ)身近な生物の生息環境の形成

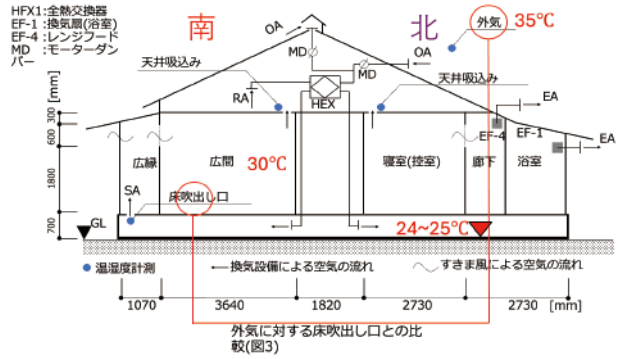
東京都環境局HPを抜粋



自然エネルギーを活用する換気システム
気づくと、江戸時代における先人の知恵を知る

熊本市の環境と共生する住宅の提案

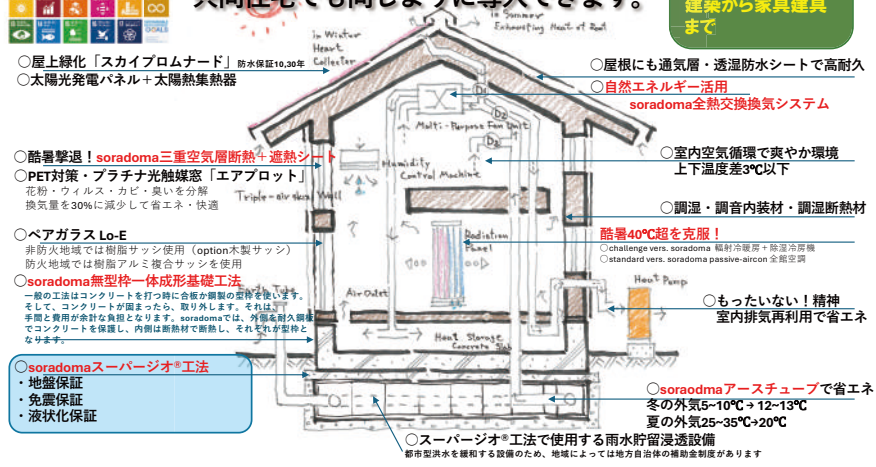
太陽は、光線と熱線、２つの資源を地球にもたらしています。
そして、その力を受けた地球では、地表面で年間平均気温15℃という環境が維持され、これまでは、様々な生物が生息できる良好な環境が維持されてきました。
日本でも、約一万年以上前から、地熱を利用した竪穴住居という画期的な発明がありました。
その屋根では草葺による断熱と土を被せることによる気化熱作用の夏の冷却と冬の断熱を実現していました。その後の民家は、必ずしも発展していません。屋根で言えば、防水したために気化熱作用がなくなりました。壁の防水化も同じ結果を生んでしまいました。
これを、古民家の科学的な要素を復活し現代化したのが、丸谷博男の提唱している「そらどまの家」のシステムなのです。
酷暑・厳冬の熊本には、その効果は抜群です。
水前寺５丁目プロジェクトではこれを実践します。
また、多くの人々の古民家改修でも有力な理解であり技術なのです。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「夏涼しく冬暖かく乾燥しない家」
この図は一軒家で表現していますが共同住宅でも同じように導入できます。

国産材杉・桧をふんだんに使う家づくり
建築から家具建具まで



❣健康な快適性は、空気を使わない輻射冷暖房！
それは、古民家改修でもピッタリのシステム！

魔法瓶はやっぱり凄い！断熱と遮熱の両方を使っている。
この考えで家を作れば
冬の熱は外に出さない！そして、
夏の熱は室内に入れない！ができる。

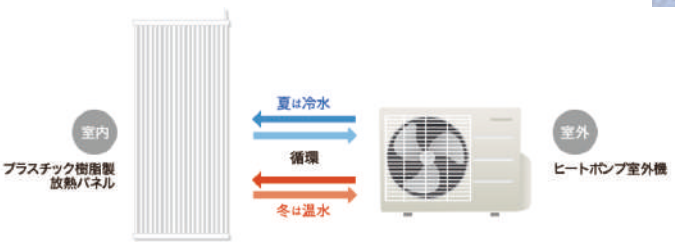
❣健康に良い暖冷房を探してみましょう！

冬、空気で暖房してもその空気は
換気によって外に捨てられ、外からは寒風が室内に入って
きてしまう。その空気を再度温めるとその空気は乾燥し風邪を引きやすくなる。
このエアコンの原理は何とかしたい！
夏も良くない！空気を冷やすと相対湿度が上がる。夏は温度が高いのですぐにカビが繁殖してしまう。アトピーや呼吸器疾患の原因となる。このエアコンも良くない。
だから、空気を温めたり冷やしたりして風を送るようなエアコンではないものを探そう。
思い出してみよう！
隙間だらけの古民家で、私たちの考え方は先祖が冬を超せたのは、輻射暖房だったからなんだ。流れる空気には関係なく、囲炉裏から放射熱を身体に受けていたからなんだ。人間の身体だけではなく、建築物のすべての材料がその熱を受けていたんだ！これが輻射熱の世界なのです。現代にもこれが使えるのです。

クール暖をおすすめする理由

Reason to recommend

無風・無臭・無音。
穏やかでクリーンな空気品質
『クール暖』は、熱交換器からの水がパイプ内を循環し、放熱パネルから輻射波を放射する冷暖房パネルシステムなので、エアコンのように温風や冷風を出しません。さらに音もなく、臭いも発生しません。
また、室内の湿度に影響を与えないので冬期でも乾燥することがなく、ぜんそくやアトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、目やのどに対する違和感など、今まで暖房器を通じて感じていた体の違和感、諸症状に対しても優しく、そして安心。部屋間の急激な温度変化によるヒートショックの心配もありません。



エコハウス研究会季刊紙
そらどま
2025.SUMMER vol.22

水前寺５丁目プロジェクトの連絡先:代表 丸谷博男
TEL：080-6536-9240　h.maruya@me.com
こちらまでお願いいたします。

代表理事　丸谷 博男（株式会社エーアンドエー・セントラル代表取締役）
理事　丸谷 晴道（丸谷建築研究所代表）
理事（事務局長）　磯貝 左千夫（株式会社ジェイボックス代表取締役）
エコハウス研究会 会報 2025 年夏号（第２２号）　2025 年7月 10 日 発行